

# 化石研 ニュース

155 2026/05/02

編集・発行：化石研究会事務局

〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩 1674-1

群馬県立自然史博物館 高桑祐司気付

## 第44回（通算第161回） 化石研究会総会・学術大会 プログラム（神奈川県立生命の星・地球博物館）

化石研究会の第44回（通算第161回）総会・学術大会は、樽 創 会員（神奈川県立生命の星・地球博物館）のお世話により神奈川県立生命の星・地球博物館で開催いたします。今回はシンポジウム「中新世の日本近海における海棲哺乳類の多様性」および13題の一般講演・2題のポスター発表および総会というプログラムとなっています。多くの皆様の参加をお願いいたします。

- 日 時：2026年5月16日（土） 13：00～16：15  
5月17日（日） 9：30～15：15
- 会 場：神奈川県立生命の星・地球博物館（神奈川県小田原市入生田499）講義室  
会場へのアクセスについては6ページをご覧ください。
- 主 催：化石研究会， 共 催：神奈川県立生命の星・地球博物館
- 日 程：  
5月16日（土）  
11：00～12：30 運営委員会（講義室）  
13：00～16：15 シンポジウム  
「中新世の日本近海における海棲哺乳類の多様性」  
世話人：樽 創（神奈川県立生命の星・地球博物館），田中嘉寛（札幌市博物館活動センター），木村敏之（群馬県立自然史博物館）  
17：30～20：00 懇親会  
会場：個室完備 豊洲市場 さかな酒場 魚星 小田原駅前店  
5月17日（日）  
9：30～11：10 一般講演A  
11：10～12：00 総会議事  
12：00～12：45 <昼食休憩>  
12：45～13：15 ポスター発表  
13：15～15：15 一般講演B  
\* 総会終了後展示室をご自由に見学してください。
- 参加費（当日受付で払込み）：一般 1000 円，大学生 500 円，高校生以下 無料

# 5月16日(土) 13:00~16:15 シンポジウム 「中新世の日本近海における海棲哺乳類の多様性」

13:00~13:10 会長挨拶 平山 廉

13:10~13:15 講演会世話人挨拶 樽 創 (神奈川県立生命の星・地球博物館)

日本の海棲哺乳類化石のまとまった話題は、1983年に海生脊椎動物シンポジウムが行われたことがはじめてであろう。その後、何回かのシンポジウムや印刷物が出ている。近年では加速度的に多くの海棲哺乳類に関する研究が出版されるようになり、それに伴いそれまで知られていなかった新たな分類群の発見や系統関係の見直しなども行われている。そこで、本シンポジウムは「中新世の日本近海における海棲哺乳類の多様性」として、現時点での最新の知見を紹介するとともに、その多様性を議論したい。

13:15~13:45 講演1 田中嘉寛 (札幌市博物館活動センター)

## 「1995年以來の、ヒゲクジラ類化石研究の進展」

『日本哺乳動物史』(1944年)において、直良信夫は「要するに海獣の研究は、現生種に於てもさうだが化石種に至つては、殆ど手がついてゐないともいへよう」と当時の研究状況について述べた。それから半世紀後、Oishi and Hasegawa (1995) はすでに大量に報告されるようになった日本の鯨類化石標本を網羅的にリストとしてまとめあげた。この論文がその後の研究に与えた影響は大きい。本発表では、1995年以來、日本産ヒゲクジラ化石研究においてどのような進展があったか、中新世のヒゲクジラ類を中心に、いくつかのトピックスを取り上げたい。

13:45~14:15 講演2 木村敏之 (群馬県立自然史博物館)

## 「1995年以來の、ハクジラ類化石研究の進展」

現生クジラ類を構成する大まかな系統的枠組みは既に漸新世において確立していたと考えられる。その後、中新世においてそれぞれの系統的な枠組みにおいて現生科あるいは属が現れ、この意味では現在のクジラ類動物相の成立過程を議論する上では中新世という時代はとりわけ重要であるといえる。ここでは特に中新世という時代に注目し、近年報告された日本産ハクジラ類化石によって明らかとなってきた北西太平洋におけるハクジラ類の進化に関する知見を概観する。

14 : 15～14 : 45 講演3 甲能直樹（国立科学博物館）

「日本における鰭脚類研究と中新世という時代」

日本における鰭脚類（アシカやセイウチ，アザラシの仲間）の古生物学的研究は，Matsumoto(1926)による「ワタセトド」の新種記載に始まる。それ以来，100年に渡る精力的な研究により，日本列島の様々な時代と地域から産出した化石が詳しく研究されている。この講演ではそうした研究史を背景に，日本近海において中新世という時代が鰭脚類の進化にとってどのような時代だったのか，最新の知識で踏み込んでみたい。

14 : 45～14 : 55 休憩

14 : 55～15 : 25 講演4 川谷 文子（飯田市美術博物館）

「日本における束柱類研究と中新世日本海」

束柱類は，1888年の報告以来，その系統的位置や生態をめぐって議論が続いている。本講演では，国内における束柱類研究史を概観しつつ，束柱類の研究史において重要な地域である佐渡島の下部～上部中新統から産出する束柱類化石に着目し，現在の知見に基づいて再検討した結果を示す。さらに，佐渡島の海生哺乳類化石全体を踏まえ，中新世日本海における海生哺乳類の深海・沖合環境への適応と多様化の可能性について話題提供する。

15 : 25～15 : 55 講演5 長澤一雄（元山形県立博物館）

「日本産カイギュウ化石の産出状況と課題」

寒冷適応したヒドロダマリス亜科の化石は，北太平洋東側の北米や西側の日本などで産出している。国内の同亜科の化石記録は，これまでの42記録のうち8割以上におよぶ。これらと北米産の化石の検討によって同亜科の議論が深化してきた。加えて，中新世の暖海性のハリテリウム亜科が東日本から，漸新世の最古のジュゴン科が九州から発見されたことにより，日本周辺の家牛相は壮大な移動と進化による多様なタクサから構成されることが明らかになってきた。

15 : 55～16 : 15 総合議論

\* 懇親会に参加するには，博物館から徒歩3分の箱根登山電車「入生田」駅発小田原駅行き16：24，16：45，もしくは17：05（260円）に乗車してください。

## 5月16日(土) 17:30~20:00 懇親会

- 会場：「個室完備 豊洲市場 さかな酒場 魚星 小田原駅前店」（小田原駅東口から徒歩2分，ローソンの2階）
- 参加を申込まれている方は，当日受付で参加費（6000円）を払込み下さい。
- 参加申込みは締切りました。



## 5月17日(日) 9:30~11:10 一般講演A

- 9:30~9:45 ① 柴 正博：静岡県西部御前崎一掛川地域の上部中新統一下部更新統の浮遊性有孔虫生層序
- 9:45~10:00 ② 落合治広：東京都西部の北浅川河床に分布する更新統上総層群加住層の堆積環境の復元と続成作用の理解について
- 10:00~10:15 ③ 鵜野 光：U-Pb放射性年代測定に基づく白亜紀後期の久慈層群の堆積年代
- 10:15~10:25 休憩
- 10:25~10:40 ④ 山川千代美・吉川博章・植田弥生・佐藤一信：瀬戸層群オオミツバマツ球果化石産出層産材化石と堆積環境について
- 10:40~10:55 ⑤ 平山 廉：岩手県久慈市の久慈層群玉川層（後期白亜紀）より産出する脊椎動物化石の最新報告とその古生物学的意義
- 10:55~11:10 ⑥ 笹川一郎：条鰭魚類の歯の形成を比較する

## 5月17日(日) 11:10~12:00 総会議事

- 12:00~12:45 昼食休憩 … 博物館内のレストラン・カフェを利用できますが，混みあいますので，弁当持参がお勧めです。

## 5月17日(日) 12:45~13:15 ポスター発表

- P-01・根本直樹・小原 想：青森県むつ湾西岸中部の瀬辺地漁港における現世有孔虫の分布
- P-02・澤村 寛：デスモスチルス高齡个体復元頭蓋の解剖学的検討

## 5月17日(日)13:15~15:15 一般講演B

13:15~13:30 ⑦ 仲井大智：樹上性ナマケモノ類にみられる骨組織の機能的意義について

13:30~13:45 ⑧ 犬塚則久：最大の地上生ナマケモノ *Megatherium* の生体復元

13:45~14:00 ⑨ 小寺 稜・スミス アシュレイ 梨花・小泉 憲司・植田 啓一・伊藤 春香：頸椎数の差異に対応する頸部形態 — マナティとジュゴンの比較解剖 —

14:00~14:10 休 憩

14:10~14:25 ⑩ 澤村 寛：高齢個体の復元頭蓋からみたデスモスチルスの生態試論

14:25~14:40 ⑪ 近藤洋一・野尻湖発掘調査団：野尻湖層産化石群集から推定される古生態の変遷史

14:40~14:55 ⑫ 三島弘幸・笹川一郎・見明康雄・鈴木道生：ラマン分光法を用いた現生および化石硬組織の解析事例

14:55~15:10 ⑬ 島田 草太郎：形態学者のための形状最適化問題入門

15:10~15:15 閉会の挨拶 樽 創（神奈川県立生命の星・地球博物館）

### 一般講演(口頭)発表者へのお願い

講演は質疑移動などを含め15分を予定しています。講演申込みの状況により若干の変更を生じる可能性があります。Windows のパソコンを1台用意する予定です。Mac の方はご自身のパソコンと変換コネクタをご持参ください。発表用ファイルはUSBメモリで渡せるようお願いいたします。

## 運営委員会の開催について

役員の方はご出席ください。

日時：5月16日(土) 11:00~12:30

場所：神奈川県立生命の星・地球博物館 講義室

## ■神奈川県立生命の星・地球博物館へのアクセス

箱根登山電車「入生田」駅（JR小田原駅から約10分）下車。

\* 運営委員会にご出席の方は箱根登山電車小田原駅発10:28にご乗車ください。

伊豆箱根バス、JR小田原駅「東口」5番バス乗り場から、

箱根園方面（約11分）、「入生田」下車。徒歩すぐ。

時刻表については、伊豆箱根バスのHPをご覧ください（QR参照）。



### 1階



\* 詳しくは神奈川県立生命の星・地球博物館ホームページをご覧ください。

<https://nh.kanagawa-museum.jp/visit/access.html>（右のQR参照）



\*5月16日(土)

運営委員会にご出席の方は、箱根登山電車小田原駅発10:28にご乗車ください。

講演会にご参加の方は、箱根登山電車小田原駅発12:38にご乗車ください。

懇親会にご参加の方は、箱根登山電車入生田駅発17:05発にご乗車ください。

\*5月17日(日)

個人講演にご参加の方は、箱根登山電車小田原駅発9:04にご乗車ください。

## 化石研究会会誌 J-STAGE 登載にかかるカンパのお願い

前号(No.154)の化石研ニュースでお知らせいたしましたが、化石研究会誌のJ-STAGE登載に関して引き続き、会員の皆様に、1口1,000円、1口以上、可能であれば2口以上のカンパをお願いいたします。事情ご賢察のうえ、多数のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

なお、カンパは、振込用紙に「J-STAGE登載カンパ2口2,000円」のように明記して、会費と同じゆうちょ銀行の講座にお振込みください。ご支援いただいた会員は、化石研ニュースに御芳名を掲載し、謝意を表します。

化石研究会 会長 平山 廉

## >>> 事務局だより <<<

- この化石研ニュースを、現在、郵送で受け取られている会員の方で、電子メールでの受け取りが可能な会員は、メールアドレスをご連絡ください。ニュース発行時に電子メールでお送りします。費用と労力の削減のために是非とも御協力ください。
- 会誌やニュースの送付先(ご自宅、勤務先)が変更となった際には、事務局までご一報ください。

- 当会会費は「前納制」となっています。未納の会員は、ゆうちょ銀行の払込取扱票を使って、2026年度分の会費（一般4,000円、学生2,000円）を納入してください。J-STAGE 登載カンパも同様に振込をおねがいします。
- 平山会長からのお願い（7ページ）のとおり、会員の皆様には「J-STAGE 登載カンパ」を1口1,000円（可能であれば2口以上）でお願いしています。下の記入例のように、ゆうちょ銀行（郵便局）の払込取扱票を使い、「J-STAGE 登載カンパ2口2,000円」のように明記してお振込みください。

払込取扱票		振替払込請求書兼受領証	
口座記号・番号はお間違えのないよう記入してください。			
口座記号	口座番号（右詰めにて記入）	金額	千：百：十：万：千：百：十：円
001007	633288	6000	
加入者名	化石研究会	料金	備考
通信欄	J-STAGE登載カンパ 2口 2,000円 2026年度会費 4,000円 370-2345 群馬県富岡市上黒岩1674-1 群馬県立自然史博物館 高桑 祐司 様 (ご連絡先電話番号) 0274-60-1200		
依頼人	高桑 祐司 様		
ご依頼人欄に、おところ・おなまえをご記入ください。		日附印	
これより下部には何も記入しないでください。		料金	円
		備考	
		この受領証は、大切に保管してください。	

記入例

編集・発行：化石研究会事務局

〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩 1674-1 群馬県立自然史博物館 高桑祐司気付

TEL: 0274-60-1200 FAX: 0274-60-1250 E-mail: BXJ04105@nifty.ne.jp

ゆうちょ銀行振替口座 口座記号 00100-7 口座番号 633288 加入者名 化石研究会

ウェブページ <http://www.kasekiken.jp/>

化石研ニュースは、上記の化石研究会のウェブページでも見るすることができます。

前号までのニュースも掲載しています。